

## 国際原子力機関（IAEA）などが共同事業の一環として 海水等の試料採取を行いました

2014年から、日本の分析機関の海域モニタリングデータの信頼性の裏付けを行うため、IAEAと国内分析機関による分析機関間評価事業※が継続して行われています。このたび、ALPS処理水の安全性に関するIAEAレビューの一部として、分析機関間評価事業の更なる透明性向上の観点から、IAEA海洋環境研究所の専門家ならびにIAEAの環境放射能分析機関ネットワーク（ALMERA）のメンバーであるフィンランド及び韓国の分析機関の専門家が来日（11月6日）し、国内分析機関や当社と共同で福島第一原子力発電所周辺の海域にて海水などの試料採取を行いました。

採取した試料は分割し、IAEA及び日本の各機関が個別に同様の分析を行い、IAEAが分析結果の比較評価を行います。

当社は、今後も引き続き、ALPS処理水に関するデータの信頼性や透明性を確保し、国内外の皆さまに向けて適時お伝えしてまいります。

### ※分析機関間評価事業

#### Interlaboratory Comparisons (ILC)

日本の海域モニタリングデータの信頼性および透明性の維持向上のため、IAEAとの協力により、2014年から福島第一原子力発電所近傍の海洋試料を **IAEAと国内分析機関とが共同で採取し、それぞれの分析機関にて個別に分析を行い、結果をIAEAが比較評価**するもの。

（原子力規制委員会 プレスリリースより）

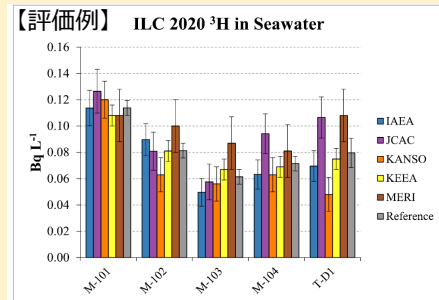


図 IAEAと4つの国内機関が分析した海水中のトリチウムの放射能濃度

### 【本年度（2022年）共同事業の一環として行われた海水などの試料採取の様子】

日程：2022年11月7日～10日

採取試料：海水・海底土・魚類・海藻類



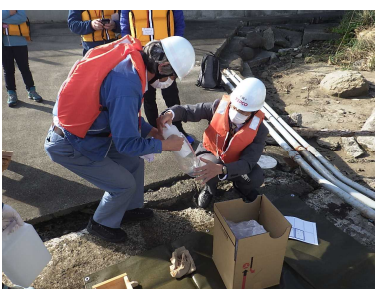
海水を採取している様子①



海水を採取している様子②



採取した海水を分配している様子



分配した海水試料



海底土を採取している様子



採取した海底土試料